

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	環境局
----	-----

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	豊かな自然環境と快適な生活環境の確保
	取組みの方針	安心して暮らせる快適なまちづくり

担当局 / 総務担当課名	環境局	総務課
連絡先	582-2182	

21年度計画

-4-(2)-

施策名	自動車環境対策の推進
-----	------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	環境性能の高い車両への買い換えの促進やノーマイカーデー推進など、ハード・ソフト両面からの総合的な取り組みを行い、地球温暖化の原因となっているCO2を削減する。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	安心して暮らせる快適なまちづくり

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度		目標値	
		2.5トン越えの大型ディーゼル車の買い換え助成件数		年度	21	計画	バス10・トラック10 台	年度
	環境性能の高い大型ディーゼル車への買い換えを促す		現状値	申請なし	実績	申請なし	目標値	
					達成度	%		
	エコスタイルタウン(H21.10)及びまつり起業祭時(H21.11)にノーマイカー得々キャンペーンを実施		年度	21	計画	-	年度	
	大きなイベント時にノーマイカーによる公共交通利用を促し、CO2を削減するとともに地域商店街の活性化につなげるもの		現状値	6800	実績	6,800 人	目標値	
					達成度	%		
	エコドライブコンテストに参加する市内事業者数		年度	21	計画	-	年度	
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者を増やし、その活動成果を公の場としてのエコドライブコンテストで発表することで企業の活動意欲をより高めるもの。		現状値	21	実績	21	目標値	
					達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	1,536 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	1,450 千円	3,450 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	平成21年度は、補助率の高い「環境対応車普及促進対策費補助制度」があり、2.5トン越えの大型ディーゼル車の買い換え助成制度と重複して利用できないため、実績は無かったが、国の補助金は予算総額に補助件数が達し次第打ち切りとなるため、その後のフォローを行うためにも本事業は継続して行う必要があったと考えている。 ノーマイカー得々キャンペーンの実施により6800人もの参加者があり、今後も継続することでCO2削減と地域商店街の活性化に繋げることができるということが証明できた。
今後の局施策の方向性		平成23年度は、当事業の財源交付元である独立行政法人環境再生保全機構において事業廃止が決定した。本市でもこれまでの状況を踏まえ、事業の必要性を検討した結果、平成22年度限りで事業を廃止することとする。 ノーマイカー得々キャンペーンも、毎年参加者が増加しており、CO2削減と地域商店街の活性化に繋げていく。 エコドライブコンテストへの参加者も21社と企業の関心の高く、優秀 事例を表彰することで、企業の意識をより高めていく。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

施策名 自動車環境対策の推進

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
大気環境の改善事業			103 千円	750 千円	裁量的経費			イ	
事業費のうち一般財源			17 千円						
ノーマイカー推進事業			925 千円	1,800 千円	裁量的経費			ア	
事業費のうち一般財源			925 千円						
エコドライブ推進事業			508 千円	900 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			508 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	1,536 千円	3,450 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	1,450 千円		

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2239	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ	
	大項目	豊かな自然環境と快適な生活環境の確保	
	取組みの方針	安心して暮らせる快適なまちづくり	
	主要施策	自動車環境対策の推進	

関連計画	最新規制適合車等代替促進事業
事業期間	H7～
経費区分	裁量の経費

-4-(2)-

事業名	大気環境の改善事業	
-----	-----------	--

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市内の事業者等がH11年排出ガス規制以前のディーゼル車(2.5t超)を廃車にし、最新排出ガス規制適合ディーゼル車に買い換える場合に、車両購入資金の一部を助成することで、環境に優しい車の普及を促すもの。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	自動車環境対策の推進	成果
				2.5トン越えの大型ディーゼル車の買い換え助成件数

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	バス10台、トラック10台	バス10台、トラック10台						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	助成件数					平成21年度	目標	
			環境性能の高い大型ディーゼル車への買い換えを促す	計画					20 台	年度
				実績					0 台	内容
				計画					0.0 %	年度
	実績						内容			
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費					103 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源					17 千円	750 千円	
	単年度計画	A:事業の見直しを図ることが可能 I:休止・廃止を検討 U:現状のまま進めることが適当 E:終了								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	年度当初の計画では、バス10台、トラック10台の補助を予定していたが、平成21年度は、本事業より補助率の高い「環境対応車普及促進対策費補助制度」があったため、補助申請はなかった。しかし、国の補助金は予算総額に補助件数が達し次第打ち切りとなるため、その後のフォローを行うためにも本事業は継続して行う必要があったと考えている。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	旧排ガス規制の大型ディーゼル車を最新規制車に買い換えることで、大幅なCO2やNOxの削減が見込めるため、自動車単体対策としての事業効果は高い。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	独立行政法人環境再生保全機構の補助で全て費用は賄われるため、実質的に市の負担は無い。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	旧排ガス規制の大型ディーゼル車を最新規制車に買い換えることで、大幅なCO2やNOxの削減が見込めるため、喫緊に事業を進める必要がある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	市内の大気環境をより良くするため、市が先導して買い替え助成を行うことで、市内環境の改善を持続していく必要がある。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	1	平成7年度から平成21年度まで、バス59台、トラック30台、塵芥車1台の補助実績があったが、近年は補助台数が減少していた。本事業より補助率の高い国の「環境対応車普及促進対策費補助制度」があったことにも影響されたが、今後も大幅に補助件数の増加は見込めない現状を踏まえ、本事業の目的である自動車単体対策はほぼ完了したと判断し、平成22年度をもって事業廃止の予定である。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2239	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	豊かな自然環境と快適な生活環境の確保
	取組みの方針	安心して暮らせる快適なまちづくり
	主要施策	自動車環境対策の推進

関連計画	北九州市環境モデル都市行動計画
事業期間	平成19年度～平成23年度
経費区分	裁量的経費

-4-(2)-

事業名	エコドライブ推進事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	環境省・独立行政法人環境再生保全機構の主催するエコドライブコンテストへの参加登録を北九州市内の事業者に対して促し、優秀な取り組みを行っているものを表彰するもの。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	自動車環境対策の推進	成果	エコドライブコンテストに参加する市内事業者数	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰		優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰
現状	北九州市長賞1社、北九州商工会議所会頭賞1社、北九州環境局長賞1社	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰	優秀な取り組みを行っている市内事業者を表彰		
【実施状況】	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成21年度	目標	
	エコドライブコンテストに参加する市内事業者数				計画	—	年度	21
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者を増やし、その活動成果をエコドライブコンテストで発表する				実績	21	内容	20社前後
					達成度	%		
【コスト】	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]				事業費	508 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	508 千円	900 千円	
【単年度計画】								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市内事業者のうち21社のエコドライブコンテストへの登録があり、その内9社が審査票を提出し、その中から3社(北九州市長賞1社、北九州商工会議所会頭賞1社、北九州環境局長賞1社)を表彰した。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。		3	市内企業におけるエコドライブ活動を普及・定着させるためのインセンティブとしての効果が見込める。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	市内運輸部門のCO2排出量を削減していくためには、簡単に組み立ててすぐに効果の出るエコドライブ活動を普及・定着させることが必要であり、そのための支援策である本事業は引き続き実施する必要がある。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	市内運輸部門のCO2排出量は増加を続けており、その対策は低炭素社会の実現のためには喫緊の課題であるため、エコドライブの普及を積極的に推進する必要がある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	実施主体として市が公に表彰することで、企業の社会的評価にもつながり、よりエコドライブへの意識が高まるため、市の関与は重要である。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	エコドライブ活動を行う企業が増え、エコドライブコンテストに参加する企業が増えていくことは、地球温暖化対策に取り組む姿勢の現れであり、引き続き表彰を行うことでその意識をより高めていく必要がある。